

つどい まなぶ つくる

# よろこび

2014年冬号 (No.3)

## CONTENTS

- 2 第12回鹿嶋市まちづくり市民大会
- 2 団体事務室の使用許可基準について意見を提出
- 3 市民セン<sup>しみせん</sup>のひろばほか
- 3 地域レポート・まちづくり探検隊  
「豊郷地そばの会in須賀宮中野区民館」
- 4 INTERVIEW ROOM・きらり★まちづくり  
「鹿嶋人ギャラリー 代表・西岡 邦彦さん」



### 第8回て～ら祭が開催されました!

11月22日～23日の2日間、まちづくり市民センターで「第8回て～ら祭」が開催されました。市民センターを拠点に活動する皆さんによるステージ発表や日ごろの活動展示、講演会などさまざまな催し物が行われ、多くの人々(て～ら)でにぎわいました。来場者は約3,500人。今年も、つどい・まなぶ・つくる「よろこび」と、人と人との輪の広がりを感じる祭りとなりました。

準備から当日の運営にご協力くださった皆さん、会場に足を運んでくださった皆さんに感謝いたします。

# 第12回鹿嶋市まちづくり市民大会

## ☆高齢化に伴う地域社会のあり方を考える☆

2月8日(日)13:30～

13:30～ 開会

13:40～ まちづくり市民・団体表彰

14:15～ 講演・シンポジウム

**会場** 大野まちづくりセンター  
多目的ホール

**主催** 鹿嶋市・鹿嶋市教育委員会  
鹿嶋市まちづくり市民センター懇話会

**主管** 第12回鹿嶋市まちづくり市民大会実行委員会

**問合せ** 鹿嶋市まちづくり市民センター  
TEL:83-1551/FAX:83-1553

※事前申込は不要です。  
当日会場にお越しください。

自治会への加入率が低下の一途をたどるなど、地域のつながりが年々希薄になり深刻さを増しています。団塊の世代が一斉に高齢者の仲間入りを果たすのもすぐそこまできていて、地域コミュニティーの砦ともいえる「自治会」問題を引き続き真剣に考えてみたいと思います。今回は高齢者を支えるための地域社会のあり方を切り口に、高齢者サポートに関連する団体などを含めて、自治会が果たすべき役割と可能性、関連組織との望ましい関係性について検討します。

併せて、まちづくりに功績のあった市民・団体の表彰も行います。お誘い合わせのうえご参加ください。



▲昨年度のまちづくり市民大会の様子

## 団体事務室の使用許可基準について意見を提出

まちづくり市民センター団体事務室の使用許可基準について5月から検討を重ねてきた鹿嶋市まちづくり市民センター懇話会（渡辺正男会長）が9月26日、取りまとめた意見を小堀一まちづくり市民センター長に提出しました。

今回求められたのは団体事務室の使用許可の基準案の取りまとめ。懇話会は団体の活動目的や内容を市の施策との合致性や補完性などから判断し、公的事業度が高い団体を優先して許可すべきなどの意見として提出しました。

小堀センター長は意見書を手し、「市民センターが判断するうえで貴重な意見をまとめていただきありがたい。今後も積極的に提言を求めていきたい。」と労をねぎらいました。

### まちづくり市民センター懇話会



◀意見書を提出する渡辺正男まちづくり市民センター懇話会長（写真右）

#### 《まちづくり市民センター懇話会とは》

協働のまちづくりを推進してきた“鹿嶋市まちづくり市民懇話会”が昨年3月に解散したのを受けて、市民センターの運営や事業のあり方についてセンター長の求めに応じて意見を提出するとともに、事業を協働で実施する組織として昨年8月に発足した。

利用しています!!

# 市民センの



三井 香揚山さん  
(行方市)

かしま灘楽習塾の講師や受講生として月6回ほど利用しています。“遊び心を大切に楽しく学ぶ”をモットーに、いろいろな方との出会いを楽しみに精進していきたいです。



野口 尚美さん・佳真さん  
(神栖市)  
姉妹でテニス部に所属しています。卒業するまで市民センで勉強がんばります!

6年間着付けを習っています。もうすぐある息子の結婚式のために留袖の練習中! 丸山 繁子さん (角折)



## 地域レポート



### まちづくり探検隊 (vol.3)



in 須賀宮中野区民館

## 豊郷地そばの会

豊郷地そばの会(代表=坂戸正孝さん)は、豊郷まちづくりセンターで、地元栽培のそばの実で作ったそば粉を使用してそば打ちを行っています。メンバーは現在6名で、豊郷まつりなどまちづくりセンターのイベントのほか、3年ほど前からは、豊郷地区内の集会所に出向き、地域のシニアの方に地そばを振る舞う活動を行っています。

11月19日は、須賀宮中野区民館で出前そば打ちが行われました。当日の朝、豊郷まちづくりセンター調理室に集合したメンバーは、早速、そば打ちを手際よく進めていきます。材料は水とそば粉のみ。シンプルですが、粉をふるいにかけて、数回に分けて水を加えて混ぜていく「水回し」と呼ばれる作業が重要なポイントです。この日は、十割そばのほか、そば粉につなぎを二割加えた「二八そば」を準備しました。



▲小間板と包丁を使い手際よく切っていきます

そば打ちが完了すると、場所を須賀宮中野区民館に移し、大鍋で次々とそばを茹で上げていきます。

できたての地そばに、地区の皆さんが準備した薬味とかき揚げが添えられ、シニアクラブ「あけぼの会」の皆さんに振る舞われました。



▲水回しのコツは「感覚です」



▲毎回楽しみにしています! 須賀宮中野シニアクラブ「あけぼの会」の皆さん

## 掲示板

参加者募集

### 市民カレッジ講座

#### 「サッカーを活かしたまちづくり」



鹿島開発からJリーグ「鹿島アントラーズ」の誕生、2002年FIFAワールドカップ開催などの歩みを紹介します。

日時 平成27年1月23日(金)  
13:30~15:00(受付13:00~)

場所 まちづくり市民センター

対象 市内在住・在勤の方(20名)

講師 市企画部企画課職員

参加費 無料

申込方法 平成27年1月9日(金)までに、下記に電話または直接申し込むか、FAX(講座名・住所・氏名・電話番号を明記)で申込み。

問合せ まちづくり市民センター  
TEL:83-1551 FAX:83-1553  
受付9:00~17:00  
(月曜、年末年始12/29~1/3休館)

★編集後記★ 地域レポート第3弾は、豊郷地そばの会の「出前そば打ち」に同行させていただきました。明るくにぎやかにそして手際よく作業する姿は圧巻! 区民館に到着すると地域の皆さんが笑顔で出迎え、地域の人と人とのつながりを感じることができました。ご協力ありがとうございました。

次号の春号は、3月15日に発行予定です。カメラを向けた際には、笑顔でポーズをお願いします!!



▲鹿嶋人ギャラリーの出張販売の会場・チェリオにて

## 鹿嶋の魅力再発見

### まち歩きツアーでまちおこし

鹿嶋人ギャラリー代表

西岡 邦彦さん  
(72歳)

#### 門前通りで まちおこし店舗を開店

鹿嶋神宮門前の大町通りでまちおこし店舗「鹿嶋人ギャラリー」を始めて五年半になります。「門前通りにかつての賑わいを取り戻したい」と、有志で応募した県の商店街活性化コンペで入賞し、空き店舗を改修してオープンしたものです。コンセプトは、「鹿嶋オリジナリティ」。鹿嶋に関わる書籍やお土産を販売するほか、手作り品を販売できるレンタルブース、作品を展示できるミニギャラリー、グループで作業できる工房を備えています。

有志と言ってもみんな商売の素人。レジ打ちも売上げの管理もマニュアルのない中でスタートしました。

#### 鹿嶋の歴史と自然を生かした “まち歩きツアー”

この店舗を繁盛させることはもちろんですが、やはり一番の目的は、この通りに賑わいを戻すこと。そこで、まず始めたのは、通りを歩いてもらう仕掛けづくりです。商工会館前の駐車場の無料化や鹿嶋神宮周辺のぶらりまち歩きを企画しました。現在は、コースを市内全域に広げ、鹿嶋城跡や塚原ト伝の墓など鹿嶋の史跡や自然を巡るコースを増やし、毎月1回まち歩きツアーを開催しています。回を重ねるごとに参加人数も増え、現在は50人前後の参加が

あります。まち歩きが定着してきた3年ほど前、韓国<sup>チェジュ</sup>済州道のウォーキングコース「済州オルレ※」の存在を知りました。このオルレをヒントに、じっくり歩いて鹿嶋の魅力を堪能してもらおうと、今年の5月、それまで6~7キロが主だったコースを15キロに伸ばした16番目のコース「鹿嶋神の道」をオープンしました。鹿嶋神宮駅を出発し、鹿嶋神宮や夫婦塚古墳、大船津一之鳥居、鎌足神社などを巡るコースで、市の協働事業の認定を受け、コースの整備や案内板・道標の設置には、行政はもとより一般市民、地区住民など多くの方の協力を得て、まさに市民協働で完成しました。市民はもとより水戸や日立、小山市など県内外からも多くのウォーカーが訪れ、予想以上に好評です。

今後、2020年東京オリンピックを見据えて、鹿嶋神の道を単なるウォーキングコースにとどめず、観光資源としてさらに拡充・発展させたいと考えています。将来は、鹿嶋、香取、息栖の東国三社を結ぶ道に発

展させるといっても話題性があり、世界文化遺産も夢じゃない。国内外の観光客に水郷三都を巡り歩いてもらいたいですね。

#### 一過性ではなく まちに根付いた賑わいを

鹿嶋人ギャラリーの開店に続き、空き店舗を活用したミニ博物館「ココシカ」や健康野菜と地ビールの店「樂田家」の出店、イベント広場も整備されるなど、少しずつですが大町通りが変わってきており、通りを歩く人も徐々に増えてきました。この動きが一過性ではなく、継続的なものとして根付かせたいといつも考えています。神宮門前町が悠久の歴史と伝統を守りつつ、新たな時代に向けて生まれ変わるには時間も必要ですし、とても大きなエネルギーが必要です。現状に満足することなく、脱皮というか、一度クリアして考える感覚は常に持ち続けたいですね。新しい年は、市民力をエネルギーにまた新たな挑戦です。

※オルレ=家に帰る小さな路地の意味



▲鹿嶋神の道オープニングセレモニーのテーブルカット

#### <PROFILE>

■にしおか・くにひこ  
茨城大学人文学部市民共創教育研究センター  
鹿嶋研究所客員研究員。  
鹿嶋神の道運営委員会代表。生涯学習団体「かしま灘楽習塾」初代塾長。平井在住。